

滝沢遺跡の出土品を紹介します！

山梨県埋蔵文化財センター 2009年10月3日(土)

1、甲斐型土器（かいがたどき）

甲斐型土器とは、平安時代(8世紀後半～10世紀後半)に、山梨(甲斐国)で作られた素焼きの土器です。この遺跡では、10世紀代の甲斐型土器が多く見つかっています。

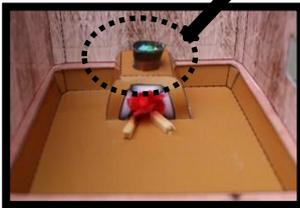
使用目的によって、様々な種類が作られました。今回は、滝沢遺跡で出土した甕(かめ)と坏(つき)を紹介します！



カマドの跡の調査をすると、下の①の写真のように、甕のかけらがたくさん見つかります。

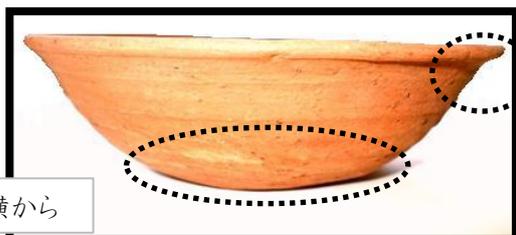
土器のかけらをつなぎあわせると、こんな感じになると思われます。②の写真は、笛吹市北堀遺跡(きたぼりいせき)で発掘されたもので、土器のかけらをつなぎ合わせて、失われた部分をおぎなって復元したものです。

甕(かめ)は、このように住居の中につくられたカマドにかけて使います。



坏(つき)

坏は、食器として使われました。おわんのように深いのが特徴です。坏に比べて浅いものを「皿」といいます。



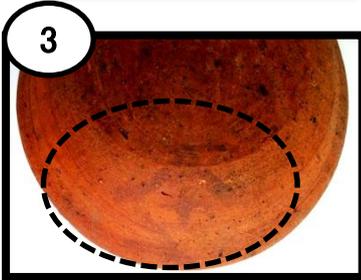
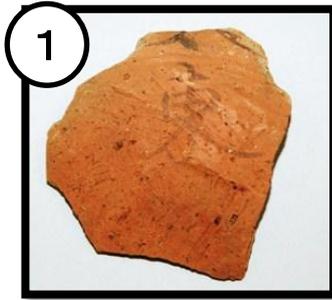
真横から



上から

坏の縁の形と底の大きさ、内面の模様のように土器の作られた時期の決め手です。見学会資料の「平安時代の土器のかたちの移り変わり」の表を見てください。この甲斐型土器は、10世紀末～11世紀に作られたものということがわかります。

2、墨書土器（ぼくしょどぎ）



墨書土器とは、墨で文字が書かれた土器のことをいいます。

①…「**東**」

②…「**連**」

③…「**奉人**」(「奉人」)

④…「**九**」

土器に書かれる文字には、1文字だけのものも多く、意味がよくわからないものもあります。

しかし、地名や人名などを意味するものも見られるため、遺跡の性格を位置づける上で重要な情報源です。

滝沢遺跡では、このほかにもたくさんの墨書土器が見つかっています。

3、耳皿（みみざら）

本来は、土器の両側が折れていて、耳に似ていることから、この名がつけました。

なんと！これは、古代の箸置きです。身分の高い人や神様のご膳（食卓）に添えられました。

イメージ図
「広報多賀城」PDFより



4、土錘（どすい）

網の先につけてた素焼きの「おもり」です。穴にひもを通して網にくくりつけました。

イメージ図



青森県中泊町博物館、H14冬の企画展「十三湖周辺の遺跡」PDFより。